

# 【サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究班 第1回訪欧】

訪欧スタッフ： 国立国際医療研究センター腎臓内科 日ノ下 文彦（班長）  
帝京大学医学部リハビリテーション科 栢森 良二  
国立国際医療研究センター健康統括科 志賀 智子

訪欧時期： 2014年10月5日～10月12日



10月6日

ドイツのサリドマイド被害者の全国調査に関わった  
Dr Greiner の研究室（ハイデルベルク）を訪問  
（左から栢森、志賀、日ノ下、Dr Greiner）



10月7日

ドイツのサリドマイド被害者の補償や支援制度などを扱う  
コンテルガン財団（ケルン）を訪問  
（理事長や関係者の皆様）



10月8日

サリドマイド薬禍が始まった頃よりサリドマイド胎芽症の診療にあたっている  
ベテラン整形外科医 Dr Graf（ニュルンベルク）を訪問  
（左からDr Graf、日ノ下、志賀、栢森）



10月10日

英国のサリドマイド被害者の補償や支援制度、調査などを扱う  
The Thalidomide Trust（ロンドン近郊）を訪問  
（左から栢森、志賀、日ノ下、Dr Morrison）